りょうかわ

学校だより　令和3年2月16日発行　第19号　新潟市立両川小学校

温かい気持ちを交わし合った子どもたち

校長　　中村　雅芳

２年生から事前にありがとう集会のプログラムと手紙を受け取って当日を迎えました。５年生に誘導され，２年生のアーチをくぐっての６年生入場。一人一人がステージの一段高いところに上がると，特技やよいところを紹介され，６年生もそれに応えるようにポーズをとるという和やかな温かい集会活動の始まりでした。／さらにステージから降りると１年生からプレゼントのペンダントをかけてもらいました。３年生からの６年生クイズの出題や４年生の命令ゲーム，縦割り班で作った色紙のプレゼント，体育館の飾り付けやくす玉作り，全校が会を成功させるために力を合わせてきました。／６年生はお礼の発表に長縄跳びの技を披露しました。６年生が発表で伝えたかったことは「できるようになるまでがんばること」です。６年生だってはじめはダブルダッチの技はできなかったのですから。この集会活動がまた次へのスタートとなって子どもたちが成長していくことを期待しています。

６年生担任の田中香苗教諭から許可をいただき，６学年だよりの一部を掲載させていただきました。「６年生ありがとう集会」の様子が端的に書かれています。学年ごとに役割分担をして，その役割を子どもたち一人一人が責任感をもち，真剣に務めていました。会の目的である「お世話になった６年生に感謝の気持ちを全校で伝える」ことに，全員が本気で取り組んだからこそ，あれだけ素晴らしい１時間をみんなで創り上げることができたのだと思います。

とりわけ素晴らしかったのは，この会を主催した５年生でした。この日に向けて何度も話し合いを重ね，民主的な手続きを踏みながら，全校の思いを一つに束ねていきました。その進捗状況は「なしっ子レインボー」新聞でタイムリーに発信され，当日までに６枚も発行するという丁寧な仕事ぶりでした。会の当日も主催者という立場を崩さずに，裏方に徹していました。６年生や下級生が困らないように，さりげなくエスコートする姿が随所で見られました。その姿を見ながら，私は“楽壇の帝王”ヘルベルト・フォン・カラヤンの名言を思い出していました。

演奏者だけが盛り上がって聴衆が冷めているのは三流
聴衆も同じく興奮して二流
演奏者は冷静で聴衆が興奮して一流

５年生は，６年生が満足する表情を見て，下級生が一生懸命に取り組む姿を見て，自分たちの喜びにしていました。それは，最後に挨拶した森現喜さんの言葉にも表れていました。まさに「一流」の振る舞いでした。

そんな５年生にお礼を言わなければと考えていた昼休み，実行委員６名が５年生全員のメッセージをもって，校長室を訪ねてきました。用件は応援し，褒めてくれた私に「感謝の思いを伝えるため」だと言います。私は驚いて，嬉しくて，何も言えませんでした。

【「これからも両川小学校をよろしくお願いします」という６年生の温かいメッセージがランドセルから‥(*^_^*)】

嬉しいことは，さらに続きました。放課後の職員室で，先生方から「６年生が各学年の教室を回って，集会へのお礼を下級生に丁寧に言ってくれていました」と聞いたのです。しかも単に「ありがとう」でなく，「〇年生は感謝の言葉を言うときに全員で声を合わせ，大きな声で言ってくれたので，私たちは感激しました」というように，具体的に，各学年が頑張ったポイントを入れて，お礼を述べていたというのです。私は本当に驚きました。これはもう大人の気遣いです。そしてこの振る舞いも，まさに「一流」です。

私は，このような素晴らしい子どもたちが集う両川小学校に勤務できて本当に幸せです。まっすぐで美しい心をこれからも教職員一丸となって，もっともっと磨いていけたらと思っています。保護者の皆さん，子どもたち一人一人の頑張りをぜひ，各ご家庭で精一杯褒めてあげてください。今年度の授業日は，あとわずか２３日です。